旭座人形芝居【あさひざにんぎょうしばい】

開催場所	**八女郡黒木町**
	黒木文楽　旭座人形芝居会館
開催日	**1 月 20 日**
	11 月 20 日座渡し神事（初光り）
	7 月 15 日座渡し神事（翁渡し）
	11 月 3 日本公演
指定	**福岡県指定無形民俗文化財**

【芸能の概要】

「旭座」の起源は、1872（明治 5）年頃といわれ、当初は、祝いの席で瓢箪や徳利などを浄瑠璃に合わせ操った、簡素なものだったといわれる。その後、本格的に人形を買い入れ、芸題を増やし、農閑期には八女茶の宣伝を兼ねて、県内各地の興行に回り好評を博した。1907（明治 40）年、旭日に大鷹をデザインした引幕の寄贈を受け、それまでの「鰐八座」から「旭座」と呼ばれるようになった。第二次大戦中、後の衰亡の危機を乗り越えて、昭和 30 年に福岡県無形文化財指定に際し「旭座」を正式名称とし、8 戸（現在は 6 戸）による保存会も発足し、家族ぐるみで継承されている。

【芸能の特徴】

「旭座人形芝居」の始まりは、1872（明治 5）年頃といわれる。鰐八地区の祝いの席で、橋村増作、石橋与吉が、瓢箪や徳利に顔を描き、浄瑠璃に合わせて操ったという素人芸によると伝えられる。それが次第に輪を広げ、地区の人形浄瑠璃へと広がった。以後、熊本県山鹿の大庭座、福岡県朝倉の恵比寿座などから人形を買い入れ、芸題を増やし、本格的な人形浄瑠璃へと発展していった。鰐八座の人形浄瑠璃も次第に芸題を増やし、農閑期には八女茶の宣伝も兼ねて、県内各地へ興行に回り、好評を博するようになった。1907（明治 40）年にハワイに移住した者による興行があったとき、在留邦人に絶賛され、幕その他の寄贈を受けた。その幕が改めて鰐八に贈られ、旭日に大鷹をデザインした六間の引き幕であったことから、それまでの地名に由来する「鰐八座」から、「旭座」と呼ばれるようになった。第二次大戦中、戦後の衰亡の危機を乗り越えて、昭和 30 年には、福岡県無形文化財の指定を受け、戸数 8 戸（現在は 6 戸）で保存会が発足し、家族ぐるみで継承されている。平成 10 年度、専用会館の完成を機会に門戸を開き、山中から都市部に向けて交流の輪を拡げようとしている。

【使用する祭具・道具など】

道具類は、明治以来使用されてきた。老女形「初代天狗久」をはじめ、立役、娘、女形、老女形など首 72 個、衣装 60 数点、ほかに多数の浄瑠璃本や小道具を所蔵している。道具は、拍子木、三味線（太棹）、床（ゆか・文楽で義太夫を語るため客席上手に張り出した舞台）、床本（ゆかほん・太夫が浄瑠璃を語る時に用いる台本）、見台（けんだい、浄瑠璃本を乗せる台）、合引（あいびき、太夫が演奏の時に用いる腰掛）など。

・アクセス

九州自動車道　八女 IC より約 23km
黒木大藤より 797 号線へ、蚩橋を渡り鰐八地区へ

・周辺の観光

黒木の大藤、グリーンピア八女、
霊巌寺(八女茶発祥の地)
大藤祭り（4 月）、八女茶山歌日本一大会（6 月）、
くろぎふるさと祭り（11 月）、
黒木平マラソン大会（11 月）。

・近くの特産品

米、お茶、栗、花、ぶどう、ナス、イチゴ。